

IV 選択評価事項 B 地域貢献活動の状況

1 選択評価事項 B「地域貢献活動の状況」に係る目的

本学は、学則第1条に「地域社会及び国際社会における文化や生活の向上、産業の発展並びに人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、2008年に策定した「公立大学法人大阪府立大学の将来像」の中で、基本理念として「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」を掲げ、教育・研究・社会貢献・大学経営の方針を示している。社会貢献については、「これまでに培った『地域の知の創造拠点』としての地域・行政との関わりを基盤に、高度研究型大学でなくては実現できない社会貢献をめざす」とし、①府民の生涯学習へのニーズの増大に応え生涯学習拠点としての役割を強化することを目指す「生涯学習拠点の提供」、②圏域に集積する中小企業の発展に資することを目指した産学官連携による「地域経済活性化への貢献」、③環境、食の安心・安全、健康・医療、格差問題など様々な都市型の課題に直面している大阪のこうした地域課題の解決に資することを目指した「シンクタンク機能の提供」等を推進することとしている。

2 選択評価事項 B「地域貢献活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

【観点に係る状況】

本学における地域貢献活動の目的及び方針は、「学則」、「公立大学法人大阪府立大学の将来像」及び「中期目標」において定め、それらを実現するための具体的な計画として「中期計画」及び「年度計画」（資料 B1-①-a～c）を定めている。これら目的等は本学構成員には学内委員会等を通じて周知するとともに、ウェブサイトにも掲載し、広く社会一般に公表・周知している。

資料B1-①-a 本学における目的及び方針等

大阪府立大学学則 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200041.html

公立大学法人大阪府立大学の将来像「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」

<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/idea/>

公立大学大阪府立大学第1期中期目標

https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_mokuhyo090324.pdf

公立大学大阪府立大学第2期中期目標

https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_mokuhyo20151222.pdf

公立大学大阪府立大学第3期中期目標

https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_mokuhyo20161025.pdf

公立大学大阪府立大学第3期中期計画

https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_keikaku170327.pdf

資料 B1-①-b 公立大学法人大阪府立大学 第3期中期計画（計画期間：平成29～34年度）（抜粋）

(3) 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

① 研究成果の発信と還元による産業活性化への貢献

- ・社会的ニーズに対応した研究を推進し、その研究成果の情報発信・企業等とのマッチングを進めるなど、成果を社会に還元する。特許においては、その質の向上を図るとともに、知的財産の充実と活用に取り組む。特に、早期技術移転の観点を踏まえ、年間の国内出願を80件程度とし、企業等との共同出願比率75%程度を確保する。
- ・本学の研究シーズや研究環境、人材育成力等を活用し、産学連携の強化や中小企業ニーズの掘り起こしなどに取り組み、地域産業の活性化に貢献する。教員一人あたりの共同・受託研究件数については、年間0.7件以上を確保する。

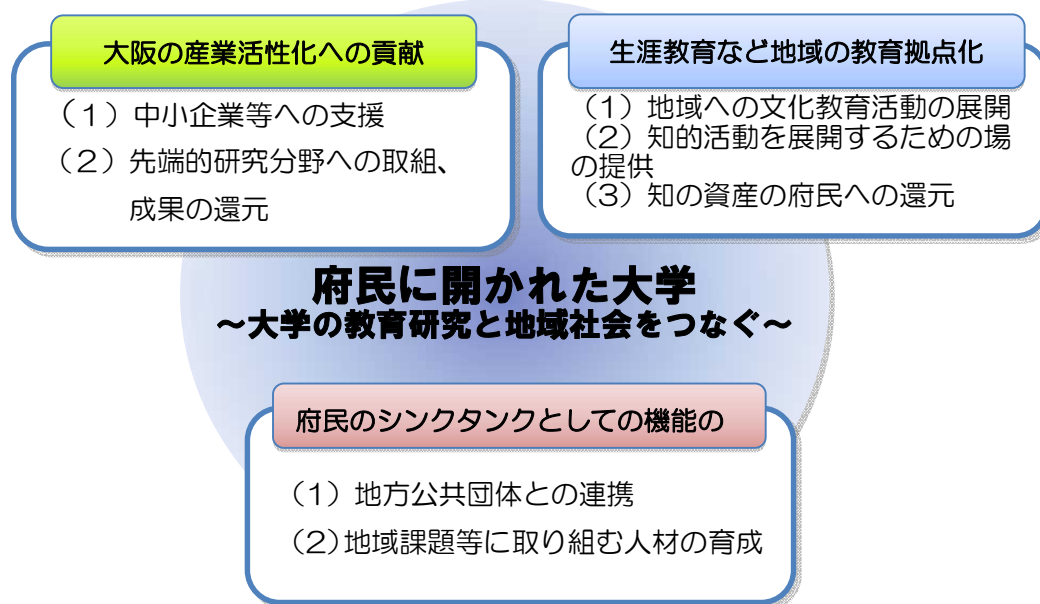
② 生涯教育の取組の強化

- ・多様で質の高い生涯教育を受ける機会を提供するため、公開講座・セミナー等におけるアンケート等により、実施内容の検証・見直しを行い、府民のニーズの把握に努める。また、適正な受益者負担のもと、全学の知的資源の更なる活用及び学外との連携などにより、体系的でより充実した教育メニューを提供する。履修証明プログラムについては、3コース以上の開設を目指す。
- ・都市部サテライトでの社会人向け公開講座の実施など、引き続き社会人の学習の場の提供に取り組む。

③ 地方自治体など諸機関との連携の強化

- ・大阪府、府内市町村等との様々な連携の取組を積極的に推進し、「大阪のシンクタンク」として、政策課題等への助言や地方自治体等との共同研究・共同事業などを実施する。
- ・本学の研究成果や技術力、人材育成力などを活用し、大学を取り巻く諸機関と連携し地域課題等に取り組むほか、それらに取り組む人材の育成を行う。また、学生によるボランティア活動・地域貢献を活性化させる。

資料 B1-①-c 地域貢献ナンバーワン大学の実現へ向けて(概念図)



(出典:事務局資料)

【分析結果とその根拠理由】

地域貢献活動の目的等を本学の学則等に定め、それらを実現するための中期計画等を策定するとともに、これらを公表・周知している。

以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点 B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

1 大阪の産業活性化への貢献

生命環境科学研究科、及び理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

2 生涯教育など地域の教育拠点化

地域の生涯教育の拠点化を目指し、小中高校生、社会人、高齢者などあらゆる層を対象とした府民の生涯学習へのニーズの増大に応えることに取り組んでいる。

1) 地域への文化教育活動の展開

物理科学課程を中心に学生が自ら考案・企画した高度な理科実験を実演して生徒の興味を引き出しながら理解を深める「演示実験」の取り組みは、地域の青少年や学校関係者から高い評価を得ており、本理学類・理学系研究科独自の取り組みとして特筆すべきものである。年に一度は「学生による学生のための演示学生実験」を公開する「なかもず 科学の泉」を学内で開催し、来訪した多数の小・中・高校生に科学の面白さを伝えている（資料B-1-②-1）。

資料B-1-②-1 「なかもず科学の泉」

年度	日時	紹介ウェブページURL
28	平成28年11月26日（土）11:00～16:00	https://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20161126_2/
29	平成29年10月28日（土）11:00～16:00	https://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20171028_3/
30	平成30年10月27日（土）11:00～16:00	https://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20181027_3/

また、子どもたちに「理科の楽しさ・魅力」を直接伝えるために、小学校や中学校に実験を出前する「デリバリー科学実験」も行っている。物理科学課程の「演示実験」は、文部科学大臣表彰を受賞した。平成23年度頃より、堺市教育委員会（堺市教育センター）が主催するイベントに出展するなど、緊密な連携活動を行っている。それ以外にも、物理教育学会や物理学会などが主催する「青少年のための科学の祭典」（2日で24,000人の来場者）に出展している。この試みは、現代の大学生に、「考える」、「創る」、「伝える」能力を涵養するとともに、青少年に科学への関心を喚起するために、その後も継続して行われている（理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと）。

3 府民のシンクタンクとしての機能の強化

生命環境科学研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

【分析結果とその根拠理由】

理学類物理科学課程では、学生が自ら考案・企画した高度な理科実験を実演して生徒の興味を引き出しながら理解を深める「演示実験」を、「なかもず科学の泉」として公開し、また、小学校等へ出向いての

デリバリー実験も行っている。このプログラムでは、学生が各種の参加者にアンケートを配布し、企画に対する評価・感想を集約して改善点を検討し、その結果をプログラムの改善に生かしている。

したがって、理学類は、青少年向けの教育プログラムを積極的に開発し、地域への教育文化活動に適切に対応していると判断する。

観点B-1-③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

1 大阪の産業活性化への貢献

生命環境科学研究科、及び理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

2 府民のシンクタンクとしての機能

生命環境科学研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

【分析結果とその根拠理由】

生命環境科学研究科、及び理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

生命環境科学研究科、及び理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

【分析結果とその根拠理由】

生命環境科学研究科、及び理学系研究科の自己点検・評価報告書を参照のこと。

(2) 目的の達成状況の判断

目的の達状況は良好である。

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 授業の中で学生が開発したユニークな科学実験を利用して科学の楽しさを地域の小中高校生に伝える科学実験イベント「なかもず科学の泉」の開催、及び「青少年のための科学の祭典」に出展するなどして幅広い青少年向けプログラムを実施している。

【改善を要する点】

- 特になし。